

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572108041		
法人名	社会福祉法人 阿仁ふくし会		
事業所名	グループホーム 桂寿あに		
所在地	秋田県北秋田市阿仁水無字宮後4番地		
自己評価作成日	平成29年1月6日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の安全・安心を最優先に考え、出来る事はお手伝いをお願いして生き生きと笑顔で生活を送れるように取り組んでいる。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年2月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>前回調査の期待される事項「職員の実態を取り入れた研修計画の策定」については、「年間予定表」に各種研修名が記載され、復命書も回覧されていることが確認できた。          管理者が利用者本位の支援をスタッフに浸透させようとしている姿勢が随所に伺われた。毎月の職員会議では(全員出席の体制)、入居者個々の状態を職員が共有し、プライバシーの確保、排泄の自立支援、「できることの支援」等に取り組み、一人ひとりが生き生きと笑顔で生活できるよう支援している。日常大きな声で歌うことや、生活の場に笑いがあることが、心身の活性化を促し、食事の自立にもつながっている。          今後、行政と連携を深める工夫、代表者と現場職員との意見交換の場面設定、避難訓練内容の工夫などに取り組むことで、これまで以上にサービスの質の向上が図られ、入居者一人ひとりのその人らしい暮らしの支援が今後も継続できるものと期待される。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「何時までも自分らしく安心、安全に生活出来るように」と理念を掲げ、ホールに提示し常に心掛けるようにしている。	理念をリビング中央の壁に掲示している他、毎月の職員会議で唱和している。利用者一人ひとりの思いを尊重し、根拠をもったケアで安全に生活できるよう職員全員が理念を常に心がけながら業務にあたるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回地域交流会の開催、毎月ボランティア訪問、サロンお茶っこへ出掛け交流している。	「たんぽ会」や「夕涼み会」では地域の方々やボランティアを招いて交流を深めている。また、地域のボランティアが毎月交替で来訪し、歌や踊りなどを入居者と一緒に楽しむなど、交流の機会が継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	毎年、阿仁ふくし会主催で地域講演会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎会議開催して、入居者の状況、行事等の取り組みを報告、意見交換をしてサービス向上に努めている。	定期的に行われ、入居者の近況や行事などの取り組み状況等を報告している。会議の中で提案された地区の防災無線設置状況の不具合がその後改善されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市にはその都度相談等で連携できている。運営推進会議時、センター長に情報提供や相談をしている。	各種申請代行手続きや運営推進会議などで阿仁総合窓口センター(事務手続きが主)と連絡を取り合っている。地域包括支援センターからの来訪は年度末に1回、生活保護担当者の来訪はまだない。	今後も引き続き、会議等への出席や来訪の依頼を地域包括支援センターや生活保護担当者に働きかけることで、相談や専門的なアドバイスを受けられる場面が増え、一層の協力関係が構築されることが期待できる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、協議内容について職員間で共有し、拘束ゼロの取り組みをしている。	実施事例はない。玄関の施錠は夜間のみで、日中はチャイムで出入りの確認をしている。法人で「ターミナル・拘束ゼロ委員会」を設置し、拘束ゼロの取り組みを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加、会議で報告し職員が共有し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員から復命書の回覧あり、職員が共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や介護保険改定時等は、その都度説明し同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時や行事参加時に意見や要望を伺っている。又、入居者からの要望は受け入れ、対応出来るように会議で検討している。	面会や行事に参加した際に家族の意見や要望を聞いているが、これまで要望や意見がほとんどない状況が続いている。	家族からの意見等をサービスに反映させていく具体的な取り組みとして、例えば満足度調査や面会時の面談等を今後も積極的に行っていくことで、意見等を気軽に伝えられる機会が増えていくものと期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日頃の意見交換を毎月の管理者会議で提案をしている。	法人の代表者とホーム職員が面談する機会はないが、管理者が施設長と話し合いをする場面は毎月設けている。ホームの職員会議はスタッフ全員が出席する体制をとっており、運営等に関する職員の意見や提案は、管理者を通じ施設長に伝えられている。	代表者や施設長が現場職員との個別面談やホーム来訪の機会を設定できるよう今後も引き続き提案していくことで、職員の働く意欲やサービスの質の向上を図ることが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者がホームに来る事が殆どなく、個々の勤務状況などを把握していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が向上できるように、年1回以上は法人内外の研修に参加の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で情報交換し、良い事は取り入れるようにしている。地元の同業管理者と意見交換をしているが、相互訪問等活動は出来てない。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で聞き取りをおこない、要望等を聞き安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に御家族に、要望等を聞き安心して貰えるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を見つけ、お手伝いをお願いしている。自分は役立っていると、生き甲斐を感じられるように対応している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態変化時は、その都度電話報告し共有できるようにしている。又、毎月の通信でホームでの様子が解るようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで地元訪問や、近所の友人が併設の特養入所されている入居者には、面会できるように対応している。	冬期間は道路状況等で難しいが、春から秋にかけては、毎日曜日に入居者の希望を取り入れながらドライブ外出を実施している。「根子の紅葉」や「打当温泉」等、入居者にとって懐かしい風景や場所を訪れることで、馴染みの人や場所との関係性が途切れないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルや孤立している入居者はいなく、一緒に話をしている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族の相談対応し、居宅支援事業所につなげている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月会議で本人の意向を把握し、希望にそえるように検討している。	歌や手踊りが得意な方、針仕事が上手な方、山菜の下処理が得意な方等々、日常の暮らしの中で入居者個々の得意な面を発揮できる場面づくりができるよう支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、サービス提供に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、出来る事を把握している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に意向を確認、会議でケア方針を話し合い計画書を作成している。	毎月の職員会議でスタッフが、入居者個々の現状や課題、ケアのあり方などについて意見を出し合いながら介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りで職員間で情報共有し、ケアの見直しに務めている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のお茶っこ会や、昼食を兼ねたドライブをおこない、楽しめるように支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所が隣接しており、定期通院や体調不良時に受診している。また専門科が必要な入居者は市民病院通院している。薬局では薬剤師と服薬について連携が出来ている。	定期の受診は、希望により1名が家族支援、他はホームで支援している。内科・外科・整形外科・歯科口腔科の診療を行っている阿仁診療所が近くにあり、定期通院の他、体調不良時にも対応可能な体制が整っている。薬局も近くにあり、ホームとの良好な関係ができています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、体調不良時は受診対応している。判断に迷うような時は併設の看護師に相談している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供し看護師と連携がとれるようにしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に重要事項説明するが、状態により、家族と再度話し合う。職員と方針を共有し、終末期は主治医と連携している。	希望があればホームで対応可能な旨、事前に本人・家族に説明している。本人の状態に応じて関係者が話し合いを行いながら、「看取り介護についての同意書」を作成する体制を整えている。医師との連携が可能であり、隣接の特養の看護師から医療的なアドバイスを受けられる体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を定期的を実施しており、身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施している。年1回は併設の事業所と合同で地域住民参加、消防署の協力を得て訓練している。	年1回、隣接の特養と合同で実施している他、ホーム単独で毎月様々な想定(大雪、火災、地震、台風、土砂崩れ等)で避難訓練を実施し、振り返りも行っていることが報告書で確認できた。備蓄品の確保や自家発電機の設置もされている。	毎月様々な想定で訓練を行い、振り返りを行いながら有事に備えている姿勢が伺われた。ただ、ホームの職員が直接消防署に通報する訓練は実施されていない。今後、訓練計画の中に通報場面等を盛り込むことで、職員がより迅速な対応を身につけることが期待される。
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日整容に気を配り、プライバシーに気をつけているが、時折配慮に掛けている事がある。	日常の様々な場面でプライバシーに配慮したケアを心掛けている。特に、排泄に関しては、大声ではなく耳元で、扉は閉めて、排泄確認は耳元でそっと等、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心掛けている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で、本人からの訴えや自己決定できるような働きかけをしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、希望にそって支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日整容に努めている。特に、外出時は自分で洋服を選んで貰っている。できない入居者にはお洒落な衣類を選んで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を取り入れたメニューや行事食等季節感ある物を提供し楽しみなものにしている。下ごしらえの手伝いをして貰っている。	現在要介助の方はおらず、同一の食形態で提供されている。入居者の希望や旬の食材を取り入れられたり、誕生日祝いのケーキは、毎回入居者と一緒に手作りするなど楽しく食事ができるよう工夫している。訪問時、入居者が和やかな雰囲気でお食器やお盆拭きを手伝っている姿が印象的であった。	栄養バランスを考慮した献立となっているが、隣接する施設の管理栄養士の専門的な意見、知識を取り込むことにより、入居者の健康維持が更に図られるものと期待される。
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の1日の食事量、水分量をチェック把握している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄・お茶で嗽をして貰っている。上手に出来ない入居者には支援している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴え時や時間でトイレ誘導され、排泄チェックおこない、パターンを把握している。夜間はポータブルトイレ使用している入居者もいる。	4名が紙パンツ、5名が布パンツを着用している。在宅時、紙パンツを常時着用していた方が、入居後、排泄パターンの把握と適切な排泄誘導で布パンツに代わる等、自立に向けた支援を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維の多い物を提供、毎朝、牛乳や乳製品提供、水分量チェックし多めに飲んで貰う工夫をしている。毎日2回歩行練習をおこなっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴実施で入浴剤で楽しい入浴ができるようにしている。曜日が決められているが、体調や便失禁、希望者に対応し入浴している。時々拒む入居者には時間や日を変更するなどの対応している。	週2回の入浴を基本としているが、随時の対応も可能である。高さの異なる洗面台や工夫された手すりが設置され、安心して容易に入浴することができる。入浴を拒否される方には、時間を置いてからの声掛けや、スタッフを変更するなど状況に応じた対応を心掛けている。また、入浴剤を使用することで、楽しみながら浴槽に入れるよう工夫している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせ、昼寝を勧めたり、誘導し休んで貰うようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬表があり、職員が把握理解している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事は手伝いたいと、自分の役割を生き甲斐に感じている。レクリエーション等で気分転換ができるようにしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間を除き外出の機会をつくっているが、車酔いや疲れると遠出ができなくなっている。	ドライブ外出で、花見や紅葉、温泉などに出掛け、季節の移ろいを感じたり、食事を楽しんだりする機会をできるだけ設けられるようにしている。ただ、加齢とともに外出に伴う疲れが顕著にみられるため、近場のドライブやホーム周辺の散歩等で戸外に出掛けられるよう支援している。家族の協力を得て、墓参りや法事など、これまでの慣習の継続を図っている入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの依頼でホームで小遣いを管理している、希望があればいつでも使えるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話を掛けたり、家族からの電話に出て話をして貰っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除で清潔にし温度調整をして快適に過ごせるように配慮している。又、季節毎の飾り付けをして季節を感じ様に工夫している。	館内はリビングが中央にあり、居室が右に5室、左に4室ある。トイレは左右に1か所ずつあり、車椅子対応も可能。全ての窓に障子が取り付けられ、やわらかい外光が注ぎ、懐かしく、落ち着いた雰囲気が感じられる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の落ちつく場所があり、各自その場所にいる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋への持ち込みは危険なもの以外は自由で、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	洋室が4室、和室が5室。どの部屋も入口の引き戸や窓には障子が取り付けられ、懐かしく、落ち着いた雰囲気が感じられる。ベッド、パネルヒーター、ロッカーはホームの備品であるが、使い慣れたものや好みのものの持参は制限せず、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には段差がなく、廊下、トイレには手摺りが設置されている。		